

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 25 日現在

機関番号：32507

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520200

研究課題名（和文）『続猿蓑』と地方俳書の比較による「かるみ」の研究

研究課題名（英文）A STUDY OF “KARUMI” IN ZOKUSARUMINO AND THE OTHER
HAIKAI ANTHOLOGIES MADE IN LOCAL AREAS

研究代表者

佐藤 勝明 (SATO KATSUAKI)

和洋女子大学・言語・文学系・教授

研究者番号：60255172

研究成果の概要（和文）：『続猿蓑』の連句について付合分析を行い、「かるみ」が高度な思考活動と句作段階での捨象・推敲を伴って実現することを、明らかにした。それが同時期の俳壇全体の中でどう位置付けられるかを明らかにするため、元禄期の全俳書を調査し、その基礎的なデータを刊行した。その中から、地方俳書の一つである『備後砂』に着目し、その分析を通して、「かるみ」とは異なる地方俳諧の実態を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Firstly, we analyzed renga works of *Zokusarumino*, and made the essence of “karumi” clear. “Karumi” is a result of complicated thoughts and simplifications. To confirm this within all the sphere of Haikai, we investigated all the Haikai books in Genroku period. Then, we studied renga works of *Bingozuna*, which is one of the Haikai books in the period, and made clear the essence of local Haikai, which is not similar to “karumi”.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近世文学・近世俳諧・俳句・かるみ・芭蕉・地方俳書

1. 研究開始当初の背景

本研究は、平成 18～20 年度に科学研究費補助金を受けて行った研究、『炭俵』『別座敷』の分析による「かるみ」の研究（課題番号：18520127）に接続するもので、その成果を十分に活用しながら推進すべく、計画したものである。そのことについては、以下、三つの点に分けて説明する。

(1) 内容的な面では、『炭俵』『別座敷』の連句分析を通じて、「かるみ」の内実がより明らかになってきた。すなわち、それは、高度の思考活動を行いながら、句の表面にはその痕跡をほとんど残さないほど、潔い捨象と推敲によって、簡潔・平明な作品にしていたものにほかならない、ということである。

本研究は、『続猿蓑』を通してその仮説の検証をしようとするものである。そして、方法的な面では、三段階による付合分析（後述）の有効であることが、先の研究から浮かび上がってきたので、これを全面的に利用することとした。

（２）また、地方俳書との比較という視点も、先の研究（『炭俵』『別座敷』の分析による「かるみ」の研究）を実施する中で浮上したものであり、やはりこれを発展的に継承するものである。

（３）さらには、これらの研究を底面から支える基礎的データ作りとして、これも先の研究で開始した作業である、元禄期前後の俳書に関する網羅的調査を、継続的に行い、『元禄時代俳人大観』と題し、刊行をめざしてまとめることにした。

2. 研究の目的

（１）本研究の目的は、「1. 研究開始当初の背景」にも記したように、先の研究（『炭俵』『別座敷』の分析による「かるみ」の研究）を推進する中で得た仮説を、より確説に近づけていくことにある。その仮説とは、これも前述の通り、「かるみ」は、高度な思考活動を前提にしながら、その痕跡を残さないように句作をした結果、単純化と平明さがきわだつようになった作品の傾向にほかならない、というものである。また、その作品が魅力的なものとなるためには、推敲と捨象の努力が欠かせず、この点において、芭蕉以外の連衆には力量のばらつきが見られる、というものであった。『続猿蓑』の付合分析を通して、このことの検証を進めるのが、本研究の最大の目的である。

（２）そして、上記のことを、俳壇全体を見渡しながらかんにしていく、ということも、本研究の大きなポイントの一つである。元禄期は、俳諧が全国的に広まりつつあった時期にあたり、とくに芭蕉没後は、門弟たちによって、「かるみ」風の俳諧が各地に伝播していく。それらのことを考え合わせ、元禄期の地方俳書に目を向けて、これを『続猿蓑』などを分析する際の、比較材料にしていくことにする。

（３）そのことと関連して、蕉門を含む俳壇全体の状況を把握するというのも、この研究の副次的な目的ということになる。先の研究（『炭俵』『別座敷』の分析による「かるみ」の研究）において着手した、元禄前後の全俳書を調査し、俳書と入集者の一覧をデータ化する作業が、そのためには欠かせない。

これを推進し、作業を完了させた上で、データをまとめていくことも、本研究の目的の一つということになる。

3. 研究の方法

（１）『続猿蓑』所収の連句作品について、三段階による付合分析を通して、特色を明らかにしていくことが、本研究の主たる方法である。それは、

① 作者は前句のどこに着目し、どのような発展的理解をしたか。

② それに基づき、この句ではどのような内容（人物像・場面・情景など）を示そうとしたのか。

③ 実際の句作にあたり、どのような表現・材料を選んだのか。

という三段階で付合をとらえるもので、これは『炭俵』『別座敷』の検討を通して獲得した方法にほかならない。

（２）そして、二つめの目的である、地方俳書の分析においても、同じ三段階の付合分析を当てはめていくことにする。蕉門以外の俳書（とくに地方俳書）にはほとんど手が付けられておらず、この点では、地方俳諧研究の方法論的な開発も行いたいと考えている。その作業を通して、蕉門の「かるみ」と地方俳書の共通点や相違点を、具体的に明らかにしていくのであり、具体的には、元禄八年刊行の備後三原の俳書、『備後砂』を取り上げることにする。

（３）上記二つのことと並行して行うのは、同時期の俳壇情勢を正確に把握し、他門の作品を比較の材料とするための、元禄時代前後の全俳書に関する網羅的調査である。ここでも先の研究（『炭俵』『別座敷』の分析による「かるみ」の研究）から得られた調査・分析の方法を踏襲し、各俳書を調査して、書誌的事項を整理し、入集者の一覧を作っていくことになる。その成果は「元禄時代俳人大観」と題して公表し、さらにはこれを一書にまとめていくことを目論んでいる。

4. 研究成果

（１）『続猿蓑』所収の連句については、歌仙二巻の分析を終え、二本の論文にまとめた（一本は入稿中）。すなわち、

① 佐藤勝明・小林孔、「『続猿蓑』「八九間」歌仙分析」（『近世文芸研究と評論』80、2011・6、p 130-146）

② 佐藤勝明・小林孔、「『続猿蓑』「雀の字や」歌仙分析」（『近世文芸研究と評論』82、2012・6 掲載予定）

の二つである。

また、この作業を行う中、『炭俵』や『別座鋪』の連句作品を改めて見直す必要が生じたため、その点にも力を注ぎ、三本の論文を発表した。すなわち、

- ①佐藤勝明「『すみだはら』「むめがゝに」歌仙分析」(『和洋女子大学紀要』50、2010・3、p13-24)
- ②佐藤勝明(『別座鋪』「紫陽草や」歌仙分析」(『和洋女子大学紀要』51、2011・3、p13-24)
- ③佐藤勝明(『すみだはら』所収連句の傾向」(『和洋女子大学紀要』52、2012・3、p1-12)

の三つである。

これらを通して、次のことが明瞭になってきた。すなわち、「かるみ」とは、高度な思考活動を行いながら、その痕跡を残さないように、表現・形象面での捨象や単純化・平明化を図ったものであること、である。その過程での芭蕉の労力には、並々ならぬものがあり、門人たちには及ばぬ面もあること、芭蕉の推敲の手を経て、作品は大きく改善されることも、具体的に明らかにすることができた。これらは、従来の「かるみ」論では抜けていた視点であり、これに基づいて、新たな「かるみ」論が築けるものと確信するに至った次第である。

(2)そして、本研究のもう一つの目的である、地方俳書に対するアプローチとしては、備後三原の俳書『備後砂』(元禄八年刊)を取り上げ、具体的な分析を通して特色を明らかにし、これを一つの論文にして発表した。すなわち、

佐藤勝明、「『備後砂』所収連句の傾向」(『近世文芸研究と評論』77、2009・11、p82-90)

である。

これによって得られた結論は、「かるみ」とは隔絶した俳諧が、「かるみ」と同時期の地方俳諧では行われていた、ということである。また、その俳諧の根底には、談林調と同一素材・表現の多用が確認された。「かるみ」との関連で、芭蕉らと同時代の地方俳諧について研究されたことはないといってよく、元禄時代の地方俳諧そのものについても、これまで報告されたことはほとんどない。この視点は、今後の地方俳諧史研究においても、大きな示唆を与えるものと考えられる。

また、備後地方に関する俳書調査の一環として、尾道大学附属図書館に蔵される下垣内文庫の悉皆調査を行い、これを下垣内文庫研究会編『尾道大学附属図書館 下垣内文庫目録』(尾道大学、2010)にまとめて刊行した。これも、今後の研究に資するところ大であると確信する。

(3)元禄時代前後の全俳書に関する網羅的な調査は、すべての作業を終え、八木書店から『元禄時代俳人大観』全三巻(2011・6~2012・3)として刊行するに至った。

本書刊行の意義は、これによって、元禄俳諧全体を俯瞰することが可能になった、ということが挙げられる。第三巻には、第一・二巻の俳書索引・俳人索引はもちろん、今榮蔵氏による『貞門談林俳人大観』(中央大学出版部、1989)の俳人索引をも加えたので、近世前期の俳壇史そのものがここに凝縮されたと言っても過言ではない。

本研究が主として取り上げた、『すみだはら』『別座鋪』『続猿蓑』など、蕉門撰集を俳諧史の上に正確に位置付けることも、本書をもってはじめて可能になったわけであり、本研究のもう一つの作業である、地方俳書の調査・研究にあたっては、本書がその基本的な文献となり、データの提供源となったわけである。

本書は、先の研究(『炭俵』『別座敷』の分析による「かるみ」の研究)や本研究の副産物ではあるものの、前述の通り、近世前期の俳壇を俯瞰するための基本的図書となることは間違いなく、今後、本書が俳諧研究に果たす役割は決して小さくないと確信している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計15件)

- ① 佐藤勝明、「『すみだはら』所収連句の傾向」、『和洋女子大学紀要』52、査読有、2012、p1-12
- ② 佐藤勝明、「『猿蓑』秋発句考(一)―秋の初めと七夕前後―」、『和洋国文研究』47、査読無、2012、p15-24
- ③ 佐藤勝明・小林孔、「『続猿蓑』「八九間」歌仙分析」、『近世文芸研究と評論』80、査読有、2011、p130-146
- ④ 伊藤善隆、「執心蔵見立評判記」、『俳句』65-5、査読無、2011、p222-225
- ⑤ 佐藤勝明、「『別座鋪』「紫陽草や」歌仙分析」、『和洋女子大学紀要』51、査読有、2011、p13-24
- ⑥ 佐藤勝明、「『猿蓑』夏発句考(六)―猛暑と夏の終わり―」、『和洋国文研究』46、査読無、2011、p15-22
- ⑦ 伊藤善隆、「江戸俳人の遊び心 「見立番付」のいろいろ」、『俳句』60-4、査読無、2011、p200-203
- ⑧ 伊藤善隆、「大名が夢中になった採点システム 点取俳諧の流行」、『俳句』59-7、査読無、2010、p50-52

- ⑨ 佐藤勝明、『『すみだはら』「むめがゝに」歌仙分析』、『和洋女子大学紀要』50、査読有、2010、p13-24
- ⑩ 佐藤勝明、『『猿蓑』夏発句考（五）一タ立時分の花・虫・人ー』、『和洋国文研究』45、査読無、2010、p15-24
- ⑪ 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明、「元禄時代俳人大観（三十五）」、『近世文芸研究と評論』78、査読無、2010、p157-181
- ⑫ 佐藤勝明、「新出資料六点ー貞徳・季吟・宗因・其角・去来ー」、『連歌俳諧研究』118、査読有、2010、p22-33
- ⑬ 佐藤勝明『『備後砂』所収連句の傾向』、『近世文芸研究と評論』77、査読無、2009、p82-90
- ⑭ 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明「元禄時代俳人大観（三十四）」、『近世文芸研究と評論』77、査読無、2009、p153-184
- ⑮ 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明「元禄時代俳人大観（三十三）」、『近世文芸研究と評論』76、査読無、2009、p42-72

〔図書〕（計8件）

- ① 佐藤勝明著、NHK出版、『芭蕉はいつから芭蕉になったか』、2012、158
- ② 雲英末雄監修、佐藤勝明・伊藤善隆・金子俊之編、八木書店、『元禄時代俳人大観』第一巻～第三巻、2011-2012、554・591・500
- ③ 佐藤勝明編（佐藤勝明・伊藤善隆・玉城司他著）、ひつじ書房、『21世紀日本文学ガイドブック5 松尾芭蕉』、2011、252
- ④ 玉城司編、鬼灯書籍、『新資料『探題句牒』ー小林一茶と門人たち』、2011、64
- ⑤ 佐藤勝明編著、平凡社、『蕪村句集講義』1～3、2010-2011、414・286・319
- ⑥ 雲英末雄・佐藤勝明編著、角川学芸出版、『芭蕉全句集』、2010、607
- ⑦ 英末雄編（佐藤勝明・玉城司・伊藤善隆・神作研一他著）、笠間書院、『江戸書物の世界 雲英文庫を中心にたどる』、2010、863
- ⑧ 下垣内文庫研究会（伊藤善隆・金子俊之・神作研一・佐藤勝明・藤沢毅）編、尾道大学、『尾道大学附属図書館 下垣内文庫目録』、2010、342

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 勝明 (SATOU KATUAKI)
和洋女子大学・言語・文学系・教授
研究者番号：60255172

(2) 研究分担者

玉城 司 (TAMAKI TUKASA)
清泉女学院大学・人間学部・教授
研究者番号：20410441
伊藤 善隆 (ITO YOSHITAKA)
湘北短期大学・総合ビジネス学科・准教授
研究者番号：30287940

(3) 連携研究者

神作 研一 (KANSAKU KENICHI)
国文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号：30267893
藤沢 毅 (FUJISAWA TAKESHI)
尾道大学 芸術文化学部 教授
研究者番号：20289268